

そよかぜだより

第106号
発行 2011. 3. 20
毎月1回発行
社会福祉法人
そよかぜ

連絡先

ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
エール 570-1233
スマイル工房 578-2723

資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

くれよん、開店に向けてたまたま準備中

4月5日にお待ちしています

3月5日から臨時休業に入ったりサイクルショップくれよんは、4月5日のリニューアルオープンに向けて、たまたま準備中です。店内の模様も大きく変えて、新鮮な気分で見なさまに喜んでもらえるようにしたいと、いま知恵を出し合って工夫しているところです。長い間ごひいきいただいたお客様には、たいへんご迷惑をおかけしていますが、今しばらくお待ちください。必ずご期待に添えるような姿になって、再びみなさまにお会いできる日を私たちも楽しみにして、がんばっています。今度オープンする新くれよんには、いままでよりも多くの店員が配置されますので、行き届いたサービスができる

「そよかぜだより」の紙面が 来年度から変わります

毎月お届けしている「そよかぜだより」の紙面が来年度から大きく変わります。執筆と編集も担当が替わります。用紙、様式、発行回数などについて検討しています。

いままでの「そよかぜだより」は、創刊以来25年間同じスタイルを続けてきましたが、気分を一新して現代的な感覚で編集することになりました。旧執筆担当者として、長い間お付き合いくださいましたみなさま方に心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

新しい「そよかぜだより」も、いままで同様にご支援くださいますようお願いいたします。

と思います。ひとつだけ心配なことがあります。ひばり園で働いている利用者が多くなり、お客様への応答が適切にできないことがあるかもしれません。いつも近くに職員がいるように心がけますので、もし、お気づきのことがありましたら、遠慮なくお問い合わせください。

職員にお申し付けください。みなさまのご注意やご意見は、障害のある利用者が自立を目指すために必要な栄養になります。一般社会に入っていく入り口になります。そのようなつもりで私たちは、みなさまのご意見をうかがいますので、気が付いたことがあれば小さなことでも、ぜひ聞かせてください。もし間違っていたことがあっても、どうか長い目で見てくださいますようお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。 2月の募金 44,285円
(順不同) 平成22年4月～23年2月の合計 529,093円

井上 篤太郎 様	横田 茂樹 様	村野 理子 様
帯刀 幸子 様	濱野 岬 様	原田 常雄 様
山下 暉枝 様	宇津木 牧夫 様	平岡 知子 様
清水 賢 様	大野 元雄 様	橋本 亜紀子 様
清水 知子 様	森田 勝 様	北野 浩美 様
山崎 六雄 様	古沢 奈保美 様	関村 理 様
天満 喜代子 様	袴田 実 様	関村 英希 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	長谷川 キヌ子 様
松岡 竹子 様	尾又 恭子 様	角野 克子 様
角野 満壽子 様	川崎 利男 様	臼井 道代 様
阿部 郁子 様	田村 由親子 様	宇津木 忠雄 様
竹内 照夫 様	田村 千佳 様	増田 一仁 様
渡辺 四郎 様	斉藤 忠 様	田中 稔 様
小沢 達子 様	吉野 満里子 様	山影 幸子 様
永岡 智恵子 様	平野 喜子 様	田中 明子 様
本間 正彦 様	㈱八洋 様	アバンバンディックス 様
桜沢 喜作 様	匿名様(4,211円)	

社会福祉法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール
(ボロは扱っていません)

2月は24,100tでした。金額は394,608円となりました。
この収益は、社会福祉法人そよかぜの運営資金になります。
みなさまのご協力ありがとうございました。

4月は第3日曜日17日です。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855

くれよん2月の売上げ
665,530円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

こまやかな気配りこそ日本人の良さ

災害時にも福祉にも大きな力

「情緒不安定」には最良の薬になります

東日本の大震災で日本中が騒然となっています。新聞は当然のように震災の記事一色です。写真入りで大見出しの記事ばかりですが、隅っこの方に次のような小さな記事がありました。

「冷静さ驚きー中国紙」という見出しで「東日本大震災について、中国メディアが、日本の民衆の『落ち着き』が強い印象を与えている（第一経日報）『日本人はなぜこんなに冷静なのか』（新京報）といった記事を相次いで報じている。2008年の四川大地震では一部で混乱も伝えられており、市民は驚きをもって報道に注目しているようだ。」

国際情報紙の環球時報は普段は日本に厳しい論調が多いが、「（東京では）数百人が広場に避難したが、男性は女性を助け、ゴミ一つ落ちていなかった」と紹介した。中国中央テレビは被災地に中国語

の案内があることを指摘。アウンサーは『外国人にも配慮をする日本に、とても感動します』と語った」という内容です。

たしかに、避難所の様子を写すテレビを見ても、給水車に並ぶ三、四百人の人たちが、誘導する係員がいなくても「もう二時間も並んでいる」といいながら実に辛抱強く列を乱さず、順番を待っている姿が何回も写されていました。

これは日本人が見れば当たり前前のことでも、中国の人には感動的な光景に見えるのでしよう。これに似た話を次に紹介します。

中国の大学から日本経済を研究するために派遣された女性がいきました。日本にきて間もない頃、研究所の近くの商店街に昼食に行き、定食屋に入りました。安くて美味しく、大変気に入りましたが定食に

付いているお新香だけは、体のために塩分を控えていたの。日また同じお店に行くと、お新香ではなく冷奴が付いていました。おいしく食べたあと、ふと気が付いて周りのテーブルを見ると、他の人の定食には昨日と同じお新香が付いています。「えーなぜ私だけ？」と思った彼女はその理由をおかみさんに聞いてみようと思いましたが、おかみさんは忙しそうに立ち働いているので何も聞けませんでした。

彼女は考えました。昨日、一回来ただけなのに、あのおかみさんが私を覚えてくれて、お新香を食べなかつたことも覚えてくれて気を使ってくれたのだ、それ以外に理由はな

いと思うと、彼女は胸がじーんとしてしばらく立ち上がれなかつたそうです。こんな細やかな心くばり気づかいは、中国ではあり得ない、お役所の高官しか入れないような超高級ホテルでもこんなサービスは絶対にできない、でも日本では定食屋のおかみさんが知らぬ顔でしてくれる、この違いはどこから

くるのだろうか。このように考えると彼女の頭の中には、そのような庶民を育んだ日本文化に対する興味が猛然とわき上がってきました。以来、専門の経済を捨てて日本文化の研究に没頭しました。やがて日本文化の専門家となった彼女は今、中国の大学で日本文化の講義をしているそうです。定食屋のおかみさんが、日中友好の大きな架け橋をつくるきっかけとなりました。

また次のような話は、いろいろな機会によく聞きます。中国から来た観光客の一行がレストランに入ってテーブルに座ります。隣のテーブルにいた数人の日本人女性が、みんなテーブルや椅子の上にはバッグなどを置いたままカウンターに注文にいきました。もし中国でそんなことをしたら、アツという間にバッグは無く

なるのが当然なので、観光客の一行はあつげに取られたという話です。気づかい、慎み深さ、謙虚さ、加えて公衆道徳やモラルの高さ、これらは間違いない。日本民族は世界一でしょう。日本人のこの特性は災害時の

助け合いや復興のために大きな力になるでしょう。そして実は福祉の現場においてもこの特性は、目に見えない所で大きな力になっています。前宮城県知事の浅野史郎氏（元厚生省官僚で、福祉の知事として有名だった）は、「日本の福祉についていろいろ意見はあるが、現場のサービスの質、利用者への気配りの細やかさは、世界一だと断言できる」といっていました。

ひばり園の利用者の中には、成育歴に問題があつて、家庭で満たされなかつたものを職員に求めてくる人がいます。それに対してどう応えるかは、職員がもつとも頭を悩ます問題です。障害の重さに対応することよりも、情緒的な問題に対応することの方がはるか

に難しいからです。そのときに力になるのは、障害についての知識などの技術的なものより、職員が生来もっている人柄です。なんでも包み込むおおらかさを持ちながら、一方で細やかな心くばりができなくてはなりません。定食屋のおかみさんのように忙しく働きながらも、小さなことも

疎かにしない気配りが人の心に届くのです。

巨大地震が起きる前の日の各新聞のトップニュースは「元少年3人に死刑確定」という記事でした。犯行当時の少年に死刑判決は異例のことですから大きなニュースになりました。日本福祉大学長の加藤幸雄氏は、「3少年は成育歴や家庭に根深い問題を抱え、情緒的に育つ条件が悪かつた。社会の中に支えを得られず、反社会的の世界の中に見せかけのぬくもりを見いだし、せめて仲間内では馬鹿にされたくない」と強かつた。極悪非道なイメージを持たれがちだが、人格の発達が未熟だった。

収監後、支援者によって飛躍的に人格を成長させた」と語っています。死刑判決後、主犯の被告は「こんな自分を見捨てないでくれて自分は幸せだった」と語ったそうです。

情緒的な欠陥にも届く支援はおおらかな心と細心の気配りです。障害の有無にかかわらず人を支援する際の鉄則でしょう。問題に直面したらこの原則に立ち返りながら進みたいと思っています。